

つの組織をあみだしていたことが早急な栽培成功の原因であつたと思われる。

(瀬戸市)

## ヒポクラテスの木と体験学習

寺 畑 喜 朔

医学教育の中で「医学概論」のあり方について、医学教育者間で十分な検討を行ったという実績はない。

全国七九大学のうち、医学概論を教科として採用しているのは五四大学、うちカリキュラムとして単位、授業時数等を明記しているのは三六大学である。また七九大学のうち、医史学を教科として正規に組入れているのは、六大学にすぎない。

演者は昭和五十四年以来、医学概論を担当している。授業期間は第一学年の一年間で、毎週一回九十分間、三十コマである。講義は、医学史を中心として過去、現代、未来に及ぶ医学医療の発達を基盤として、基礎医学、臨床医学の入門を説くとともに、医の倫理について認識させるよう努めている。しかし、学生達は医学概論について、どれほど関心を示したか、その客観的成果をうることは容易では

ない。

ところで、医学概論の第一講の主題は「ヒポクラテスの木」で、この木の由来を解説しつつ古代医学の特徴を示し、ヒポクラテスの誓いに対する理解を求めることを眼目としている。また、例年夏期には医学概論の指定テーマを与え、レポートを提出させることとしている。この主眼は講義一辺倒による教育効果は期待が薄く、体験学習による成果を望むところにある。

今回は、緒方富雄博士編の「日本にあるヒポクラテスの木総ざらえ」(けんさ第十四巻、第二号、一九八四)を資料として、「ヒポクラテスの木をたづねて」をテーマとした。

日本におけるヒポクラテスの木は、(1)篠田株(一九五三年、原木↓球状果↓実生・篠田総合病院)、(2)蒲原株(一九六九年、原木↓球状果↓実生・新潟大学医学部)、(3)緒方株(一九七二年、アテネ Evangelismos 病院 Doxiadis 病院長から原木の若木・東京大学医学部図書館)、(4)赤十字株(一九七七年、日本赤十字社創立百年の記念植樹としてギリシヤ赤十字社より苗木贈らる・日赤医療センター、日赤本社)に分類されている。

本学学生が訪ねたヒポクラテスの木はつぎのごとくであ

る。

(1) 篠田株、篠田総合病院、社団法人岐阜精神病院、菅原病院(後述)

(2) 蒲原株、新潟大学医学部、聖マリアンナ医科大学

(3) 緒方株、東京大学医学部図書館

(4) 赤十字株、日赤医療センター、日赤本社のほか、大阪、京都、名古屋第一、福井、静岡、広島、高松、山口、前橋、足利、大田原、諏訪、深谷、小川の各赤十字病院、

大学関係では日本大学医学部、東京医科大学、帝京大学医学部、滋賀医科大学、宮崎医科大学、九州歯科大学

以上、学生が訪ねたヒポクラテスの木をもつ施設をみると、学生らの実家の地理的關係から東京大学(九名)、大阪赤十字(十六名)、福井赤十字(八名)に集中した傾向があった。しかし、第二学期の始め、演者は総括して再度ヒポクラテスの木について講義することとなり、結果として、全国に分布するヒポクラテスの木の主要株について、学生らは間接に認識する成果があった。

つぎに、菅原和彦(学生)の父菅原和夫氏(秋田県本荘市菅原病院長)が育成したヒポクラテスの木の由来について

紹介する。

「篠田秀男博士より篠田株四号が、岐阜精神病院（創立五十周年記念）に贈られた。菅原氏の師であつた故山村道雄病院長（元弘前大学精神科教授）より昭和五十七年三月、『これから先も患者のための医療を心がけるように、寒気がきびしくとも秋田だと育つだらう』の言葉を添えて贈られた」、木は年々生長し、現在直径十五糎程度まで生育したという。そして、本年八月末、演者に菅原株第一号が届けられた。新芽をもつたヒポクラテスの木は近々大学の構内に地植えすることとし、第一学年の学生全員に、この由緒ある木の発育を見守るよう指示した。

ところで、ヒポクラテスの木が現在それぞれの施設でどのように扱われているかについて調査したが、赤十字病院の多くは、創立百年記念の植樹の意義だけが強く残り、その由来が不鮮明で、ヒポクラテスの影は薄かったと、学生らは報告している。一方、東京大学を訪ねた学生は、緒方博士の文（日本のヒポクラテスの木、学士会会報第七三〇号、一九七六）の写しを贈られ、これによつて植樹の意義が明白になったと伝えている。

北陸地方では、福井赤十字病院のヒポクラテスの木が唯一である。ここで篠田株が加わり、将来、蒲原株、緒方株の寄贈をうけて、北陸における医道の高揚のため、ヒポクラテスの木を育てたいと考えている。

（金沢医科大学）